

2017年7月28日

東京大学陸上運動部

東京大学・京都大学陸上競技混成チームがオックスフォード・ケンブリッジ大学 陸上競技クラブ合同チーム（アキレスクラブ）と交流戦を開催（於英国）

東京大学陸上運動部と京都大学陸上競技部は、両校の混成チームを編成して初めて英国へ遠征し、本年8月6日（日）に、ケンブリッジ大学陸上競技場において、オックスフォード・ケンブリッジ両大学の陸上競技クラブ合同チーム（アキレスクラブ）と交流試合を行ないます。

東京大学からは31名、京都大学からは6名の選手が参加し、トラック競技・フィールド競技ともに多くの種目を対抗戦として行なう他、オープン参加の種目も設けて両国アスリートの交流を図ります。

東京大学、京都大学の両校は、1924年から陸上競技で対校戦を実施しており、本年9月には回を数えること90回の記念大会を予定しています。他方、英国においてオックスフォード・ケンブリッジ両大学の陸上競技クラブは、長年にわたり対校戦を実施してきたことに加え、両校の学生と卒業生でアキレスクラブと称する団体を結成し、米国アイビーリーグの大学や香港、中国等の大学とも交流試合を行なっていました。

わが国の大学とアキレスクラブとの交流の歴史をひもときますと、1928年の第1回日本学生対校陸上競技大会で総合優勝した早稲田大学競走部が、アムステルダムオリンピックの日本代表に選ばれた織田幹雄、沖田芳夫、南部忠平氏ら9名に西田修平氏ら選抜された部員13名を加え、オリンピックの最終調整地として英国に渡り、この年7月10日ロンドン・スタンフォードブリッジ・スタジアムにてアキレスクラブと対抗戦を行いました。この試合後、アムステルダムオリンピックで織田幹雄氏が三段跳で日本人初の金メダルを獲得しました。

それから約70年、アキレスクラブとの交信を続けていた中、1999年9月に日本でこの歴史ある対抗戦を復活したいというFAXが日本陸上競技連盟に届きました。そこで早稲田大学関係者に伝統ある早慶戦に組入れることを提案したところ、同年9月18日大井競技場で開催された第75回早慶戦

の種目にアキレスクラブとの対抗戦を加え、さらに女子種目もアキレスクラブと早慶の女子合同チームとの間で行われました。

その日から18年の歳月が流れ、本年8月にロンドンで世界陸上競技選手権大会が開催されることを契機に、日本陸連事務局長の風間明氏（昭和53年早稲田大学卒業、競走部出身）は、どこかの大学が世界陸上を観戦しつつ、このアキレスクラブとの対抗戦を引き継いでほしいと考え、東京大学陸上運動倶楽部理事長である日本陸連財務委員長の小手川強二氏に提案したところ、東京大学が過去90年にわたり対校戦を行なっている京都大学陸上競技部の賛同を得て、両大学の混成チームでロンドンへ遠征するという話がまとまり、アキレスクラブサイドも大歓迎となって開催が決定したものです。

そもそも東京大学と京都大学の対抗戦は、ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の関係に倣ったもので、現在の両大学のスクールカラー（東大：淡青、京大：濃紺）も、最初のボートレースのときに英国両大学のものを採用したのが定着したという歴史がありました。

さらに遡れば「日本の近代スポーツの父」と言われるイギリス人のFrederick William Strange氏は、現在のLondon大学を卒業し、明治の初期1875年に日本に渡り、東京英語学校、東京大学予備校、第一中学校等の英語教師として英語を教える傍ら、陸上競技、ボート、野球等のスポーツを日本に持ち込んで普及につとめられました。Strange氏は若くして日本で亡くなりましたが、その功績を称える記念碑が、旧制一高同窓会により駒場キャンパス陸上グラウンド脇に設置されています。

この歴史からも今回の交流戦は陸上競技のルーツを辿るものと言えます。

以上

【参考】

東京大学陸上運動部のホームページ

<http://www.uttf.org/>

京都大学陸上競技部のホームページ

<http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>

【別紙1】東京大学陸上運動部紹介文

【別紙2】京都大学陸上競技部紹介文

【問い合わせ先】

東京大学陸上運動倶楽部副理事長 田上静之：seishirunner@yahoo.co.jp